

# 2016年度(平成28年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

〈学校用〉

校番(25)番 福山市立大津野小学校

## 1 授業の現状

○評価規準や単元のゴールを児童と共有することで、児童の学ぶ意欲や評価意識を高めている。  
△対話をもとに、児童が主体的に課題を発見したり、追究したりする授業が少ない。

転換

## 2 めざす授業の姿

自ら考え、学び、自尊感情を高める授業  
・自分の考えを書くことができる授業  
・児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業

## 3 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組	8月末の状況	9月からの取組	12月末の状況	1月からの取組	2月末の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科・算数科で、評価規準(A, B)を児童と共有する。</li> <li>国語科・算数科を中心に課題追求型の「めあて」にする。</li> <li>国語科・算数科・学級会活動において、対話活動(ペア・グループ)を仕組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>53.5%の学級が7割以上、評価規準を提示した。児童に分かりやすく、適切な評価規準の提示に課題がある。</li> <li>42.8%の学級が7割以上、課題追求型の「めあて」を提示した。これにより、めあてとまとめの整合性を児童が意識し始めた。国語科では、内容によって、難しい場合がある。</li> <li>46.1%の学級が7割以上、対話活動を仕組んだ。低学年ではペア対話の仕方、中学年ではグループ対話の仕方、高学年では対話の質について課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科、算数科ともに、つけたい力を明確にし、7割以上評価規準を児童に提示する。</li> <li>国語は7割以上、算数は8割以上、課題追求型のめあてにする。</li> <li>学年間でノート交流をする際に評価規準と「めあて」も交流する。</li> <li>目的のある対話活動を7割以上仕組む。低、中学年では、「大津野ガイドブック」をもとにペア、グループ対話の仕方を身につけられるよう指導する。高学年では、児童相互の質問や評価ができるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>67.8%の学級が7割以上、評価規準を提示した。評価規準を提示することで、児童が授業のゴールを意識して学習する姿が増えた。</li> <li>63.6%の学級が7割以上、課題追求型のめあてを提示することができた。児童自身がめあてやまとめを考えることができるようになってきた。</li> <li>57.1%の学級が対話活動を7割以上、対話活動を仕組んだ。</li> <li>クラスによって取組にばらつきがある。各教科の観点ごとにどのような評価規準やめあてがよいか、どのような対話活動を仕組むか、学校全体で取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科、算数科ともに、全学級7割以上、評価規準と課題追求型のめあてを提示する。</li> <li>国語科、算数科の評価規準と課題追求型のめあてについて学校全体で観点ごとに提示の仕方を確認するとともに、2週間に1回は各学年で相談し、児童が意欲的に学習できる効果的な内容を考える。</li> <li>対話活動について、3学期末までにどのレベルまで児童の力を高めるか、学校全体で確認し、学年ごとに指導の仕方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で例をもとに確認することで、評価規準と課題追求型のめあてを、全学級が7割以上提示した。めあてに対するまとめを考えたり、ふり返りで進んで自身の学びを評価したりする児童が増えた。(5月68.3%→2月80.5%) 今後は、個に応じた指導を工夫し、自分の考えを書くことができる児童をさらに増やす。</li> <li>対話活動について、全校で発達段階に応じた目標を提示し、授業の7割以上で対話活動を仕組んだ学級が、85.7%になった。対話活動で自分の考えを伝えようとする児童が増えてきた。「伝え合う」「学び合う」対話活動への手立てが必要である。</li> </ul>

## 4 取組の結果

数値は2016年(H28年)8月末の調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%)

	A問題	B問題
国語	75.5(-2.9)	60.5(+0.0)
算数	81.9(+2.2)	52.0(+2.5)

「基礎・基本」定着状況調査(%)

	タイプ I	タイプ II
国語	78.6(+10.6)	41.8(+5.1)
算数	74.5(-0.4)	62.6(+10.6)
理科	78.9(+10.8)	48.6(+1.9)

( )は県平均との差

「基礎・基本」定着状況調査(児童質問紙調査)(%)

内容	国語		算数		理科	
	よく	やや	よく	やや	よく	やや
授業が分かる	63.8	27.7	59.6	25.5	55.3	34.0
学校が楽しい	100.0					

暴力行為発生率・不登校児童出現率 (%)

	(2)月末現在
暴力行為	0
不登校	2

体力・運動能力調査 (網掛は県平均以上)

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	2m×10m×4	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	2m×10m×4	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
1年	10.07	13.07	27.22	26.59	13.89	11.67	126.78	8.77	1年	9.80	13.52	29.13	25.76	12.67	12.21	115.27	5.73
2年	12.25	15.88	27.75	30.58	31.92	10.81	125.46	12.67	2年	10.94	16.29	32.97	28.17	24.51	10.90	118.11	7.06
3年	12.79	18.62	35.76	36.14	39.21	10.32	143.82	15.71	3年	13.73	20.95	35.32	36.18	33.82	10.41	131.09	11.64
4年	14.75	18.92	29.22	39.92	50.87	9.99	148.92	17.41	4年	14.06	17.89	36.67	39.17	45.28	10.32	140.50	12.50
5年	16.48	20.38	31.55	41.21	50.45	10.07	155.55	22.52	5年	17.05	22.65	36.48	42.49	43.50	9.71	164.71	15.80
6年	18.78	21.04	36.92	46.72	69.92	9.28	169.68	24.52	6年	21.76	20.18	41.29	43.76	49.24	9.94	159.47	16.82

小中一貫教育に係るアンケート[対象:授業者](%)

内容	よく当てはまる	当てはまる	どちらかといえば当てはまる
仕事に意義とやりがいを感じている	21	50	29
日々の仕事に充実感がある	14	43	43